学校番号	3005

令和５年度　建築科

教科	工業科	科目	建築製図	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「建築設計製図」（実教出版）						
副教材等	「新しい建築の製図」（学芸出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現在の図面はCADが主流になっていますが、手で描くことはどの時代においても重要です。
製図の授業では、配布プリントを基にしたトレースではあるものの、単にトレースするだけでなく、エスキスなどのラフな図案から外観や内部空間を立体的に把握し、プランニングの不具合を発見しては修正しながら各種図面間の整合性を取りつつ、作図できる能力を身につけることが必要です。将来はそのような能力が身につけられるよう、鉄筋コンクリート造や鉄骨造などの大規模建築物を作図しながら学習してください。

2　学習の到達目標

３年次では、ドラフターを使った製図の基礎基本を学び、鉄筋コンクリート造や鋼構造を理解しながら比較的大きな建築物の作図方法を理解する。
また、３年間の集大成として、建築に関する基礎知識を総合的にまとめる能力や、エスキスから作図できるような能力など、設計図書作成への礎となるよう、製図規約や構造・法規、電気や給排水などの建築設備、建築材料などの仕様も理解しながら描くことができる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	鉄筋コンクリート造や鋼構造に関する設計について興味･関心をもち、課題の改善･向上をめざして意欲的かつ主体的に真摯な態度で取り組もうとする。	鉄筋コンクリート造や鋼構造に関する設計について思考を深め、適切に判断し、工夫･創造しながら表現する能力を身につけている。	鉄筋コンクリート造や鋼構造に関する設計について基本的な技術を身につけ、それを適切に活用することができる。	鉄筋コンクリート造や鋼構造に関する設計について、設計するために必要な知識を身につけ、大型建築物についての機能や社会的重要性を理解している。
評価方法	学習態度 出席状況 メモやスケッチ等 作品の進行状況	学習態度 作品の進行状況 表現力 　線の区別 　濃さ 　正確さ 　密度 　美しさ　など	学習態度 作品の進行状況 作図力 　線の区別 　濃さ 　正確さ 　速さ 　美しさ　など	学習態度 内容理解度 　線の区別 　各種記号の理解 　家具寸法や空間の把握力　など

上に示す観点に基づいて学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じてそれぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	鉄骨造オフィスビルの作図	・配置図兼 1階平面図 ・2階平面図 ・立面図 ・断面図	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:建築製図に興味や関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:建築製図に課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:建築製図について表現する力を身につけている。 d:建築製図についてその基礎・基本を理解し、知識を身につけている。	学習態度 出席状況 メモやスケッチ等 作品の進行状況 内容理解度 作図・表現力 線の区別 濃さ 正確さ 速さ 密度 美しさ 記号の理解 など
後期	建築棟設計図面の作図	・配置図 ・1階平面図 ・2階平面図 ・3階平面図 ・4階平面図 ・立面図 ・断面図	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:建築製図に興味や関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:建築製図に課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:建築製図について表現する力を身につけている。 d:建築製図についてその基礎・基本を理解し、知識を身につけている。	学習態度 出席状況 メモやスケッチ等 作品の進行状況 内容理解度 課題表現力 線の区別 濃さ 正確さ 速さ 密度 美しさ 記号の理解 など

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。